

# 酒々井町郷土研究会々報

## 第26号

昭和57.10.5日  
発行  
酒々井町郷土研究会  
編集 務部

### 酒々井町の牧園発新田 沖田善三郎

享保年間徳川幕府は財政再建の爲新田開墾を奨励した。享保七年(一七二二)幕府代官小宮山奎進が小金牧、佐倉牧の管理を任せられると野馬に支障のない原野を見立て開墾を進めた。伊條の松並木を奎進並木ともいふはこの代官の名に由るものと思はれる。

今倉新田は享保十五年(一七三〇)十月に小宮山奎進から年貢割付状を受けてより、享保十六年(一七三二)三月の今倉新田領上書は名主平左エ内、組頭権兵衛百姓代長左エ内によつて小宮山奎進、菅佐次郎二名宛に提出している。又、上岩橋新田は享保七年十一月、下校地を受けてより、上岩橋村直右衛門が最上社地植出しとして、杉林四反八畝十六歩を仕立てたことに始まり(藤丸文書)享保十六年(一七三二)五月、小宮山奎進外五人の役人による校地を受けてより、共に小宮山奎進の見立新田である。飯積新田は明治六年(一八七三)の飯積村への合併後に享保年中からの持添新田である。孫山新田も明治二年(一八六九)四月の町村合併に際し、享保年中伊條村の校地に於て氏家なく村名を異にするも、其実一村たること明かなりと伊條村と共に酒々井町への合併を陳情してより、共に享保年間の幕府代官による見立新田であったことがわかる。

(明治二二年五月二五日の酒々井町々議会は今倉新田と伊條新田、孫山新田と伊條を夫々合わせて一区とする決議している。これら代官見立新田は、つれも幕府直轄領となり、その年貢増収分が幕府財政を助けた。

開墾をすすめた代官はその一代限り上納分の十分の一を取分として認められていた。これらの新田はいづれも人家なく、佐倉藩領である。親村が持添新田として管理した。

文久元年(一八六一)の飯積村名主治右衛門が佐倉藩へ出た「去府届」では、飯積新田支配の代官佐々木道太郎様御用の爲去府するとあり、親村の飯積村名主が新田村名主を兼帯していた。この時飯積村名主は、「甲沢新田」「新橋新田」「立沢新田」(いづれも現在富里村)村々の惣代名主とあり、牧隣接の村々に幕府直轄領の持添新田が成立していた事がわかる。

新田開墾は親村の農民だけでなく、他村の農民も開墾人になつてより、新橋新田の名請人に、中川村七兵衛、林畑二町三反一畝十二歩、本佐倉村安右エ内、林畑八反七畝二三歩、尾上村清次郎、林畑八反四畝二九歩、上岩橋村六兵衛、林畑七反二歩と現在の酒々井町の村々の人達の名が見える。この校地帳(享保十六年五月)の名請人二四名中他村の人九人であるという(富里村史)。この他成木新田の開墾(享保年間)に柏木村相京、久右衛門が参画し、新田地名の「成木」の木は柏木村の木とつてつけられたい。

### 郷土石日記

7月7日	会報 25 発行の 号よ全田 25 行の 集清記する 酒々 古文書 習会 井 町村明細書 席者 13名 調査 伊條 石田 石田 伊條 い た 石田 11名 参加者 員 11名 元より 8名
7月17日	史談会 爲 橋 己 子 善兵衛 衛 者 俊 破 西 氏 園 じ 馬 橋 の 風 俗 につ いて 講 受ける 上 清 明 文化財 受 護 活 動 上の 岩 橋 川 列 する の 草 刈 12名 女 9名 参加者 男 7名 女 8名
7月20日	A班 野 草 会 主 催 業 麻 部 高 東 28名 30名 会 参加者 男 15名 女 8名
7月22日	B班 参加者 25名

(2頁に続く)

# 竹の舟

H 生

一度は行つて見たいと思つていた中国旅行に去る五月に先参加することかできた。

わすか五泊六日の旅であつたから、ちよつぱりのぞいたに過ぎないが印象に残るものは数多くあつた。

その内の一つに竹の舟がある。今度の旅行で最も期待してゐるのは、中国第一の景勝地といわれる桂林の瀧江(リこう)下りであつた。

瀧江下りは桂林から陽朔(ようさく)までの約五時間の船下りであつた。いかにも中国らしいゆつたりとした川の流氷に沿つた風景にカメラを向けたいたのであるが、何処へ行つても竹の舟がたくさんあつたのは驚いた。

木の舟は大きい船だけ、漁舟はみな竹の舟であつた。のんびり釣つている舟、竿で漕いでいる舟、舢舨(もや)つてある舟、みんま竹の舟である。沿岸の集落のあるところには必ず竹の舟が長そと六、七米の太い孟宗竹をこし八本筏のように編んである。竹の舟のよさである。

これたれが誰にでも簡単でできようである。こんな簡単な舟がどうして日本では利用しないのだらうか。古代人は丸木舟を利用したといふが、竹の舟はどうであらうか。

印着沼が氾濫したとき、船がよいため水稲を刈ることができず腐らしてしまつたことなど知つているが、なぜあの時に竹の舟を思いつかへなかつたのだらうか。疑問が際限なくつづく。

釣人を見せると竹の舟が思ひよされる。竹の舟を作つての人ばかりと釣を樂しむ人はいないものだらうか。私は釣はやらないがやるなら竹の舟でやつてみたいと思つて、竹の舟を眺めてゐる。



## 見学会案内

### 県内見学会

○藻原寺 日蓮上人の最初の帰依であつた遠江守斎後兼綱の建立であり、豪壮な寺院である。

○茨原公園 藻原寺の裏山に作られた近代的不公園で、山と池がよく調和している。

○西願寺 市原市平蔵にあり、飛騨の匠の建立といわれる勝れた阿彌陀堂で、国の重要文化財に指定されている。

一泊見学会  
○鋸山と日本寺 鋸山は東京湾を一望できる景勝地。日本寺は日本一の大きな石仏と五百羅漢で知られてゐるが、今度二六三九段の日本一の石段が完成した。

○涅槃像(採収地) 長さ十六メートルと日本一の涅槃像が館山市に今春完成した。一婦人の独力で建立されたもの。館が完成した。

○鋸山城 大仏で知られた城山公園に今年天守閣風の博物館が完成した。

○仁右衛門島 源頼朝伝説が知られてゐる。小島へ渡ります。

○高倉観音(高蔵寺) 坂東三十三観音のうち三の番札所。右堂は高床式の高堂な建物。

### 郷土研究日誌

(2頁より)

- 7月24日 郷土史講座「酒々井町の五代文化」講師 北語院 栗原 先生
- 8月21日 史談会 酒々井の民俗について 柳屋 先生
- 8月29日 石仏調査 橋本 先生
- 9月4日 野草の会 雨天中止
- 9月12日 石仏調査 橋本 先生
- 9月18日 前期の行事計画 西 先生
- 9月21日 A班 市川 先生
- 9月24日 B班 市川 先生





# 郷土研行事案内

項目	10月	11月	12月
古文書学習会	2日(土)午後1時30分 中央公民館	13日(土)午後1時30分 中央公民館	休
石仏調査	17日(日)午前9時 中央公民館前集合 雨天中止	14日(日)午前9時 中央公民館前集合 雨天中止	12日(日)午前9時 中央公民館前集合 雨天中止
史談会	21日(木)午後1時 中央公民館 酒々井町の民俗	10日(土)午後1時30分 中央公民館 酒々井町の民俗	休
野草の会	9日(土)午後1時 京成酒々井駅集合(天津方面) 雨天中止	6日(土)午後1時 京成酒々井駅集合 大和田一八千代台 雨天中止	休
県内見学会	11月16日(火) A班 11月19日(金) B班 各38名 午前8時30分役場出発 会費¥1,000- 昼食代含ム 見学地= 藻原寺~茂原公園~養老十ヶ谷~西願寺		
一泊見学会	12月7・8(火・水) 日午前7時40分光ドライブイン - 45分 ショッピング 発 - 50分 役場 見学地= ① 鋸山・日本寺~涅槃像~館山城~万龍泊 ② 小湊~仁右内島~高蔵寺~酒々井 会費¥11,000- 予定人員60名		

## 新会員紹介

- 323 木村幸子
- 324 伊藤玲子
- 325 山口静子
- 326 安養ひろ子
- 327 齊美ふゆ子
- 328 山崎康弘
- 329 鈴木恒子
- 330 松尾睦子
- 331 秦和子
- 332 齊美鈴江
- 333 齊美もと
- 334 木村初枝
- 335 木村ふゆ
- 336 勸三郎
- 337 櫻井ハル子

## 会計報告

7月20日A班、22日B班 麻綿乗行

収入 1,000×72 } 72,500,-  
500×5 }

支出 バス代 8,000×2 = 16,000,-  
幹当代 450× } 791 = 40,290,-  
お茶 60× }  
有料道路 1,600×2 = 3,200,-  
計 59,490,-

差引 15,010,- 郷土研へ繰入ル

9.21日 9月24日 H.B班等 荒山方面行  
収入 会費 1,000×72 } 72,000 } 72,560  
雑費 560 }

支出 バス代 8,000×2 = 16,000,-  
幹当代 480×80 = 43,200 }  
お茶 50 }  
有料道路 2,050×2 = 4,100 }  
十兵衛城 250×71 = 17,750 }  
入場料 }  
計 81,050

差引不足 8,490,- 郷土研より補助